九重山の火山活動解説資料（平成 21 年４月）

福岡管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成 19 年 12 月１日に噴火予報（噴火警戒レベル１、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○　４月の活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図２）

噴煙は白色、高さは 10～400ｍで推移し、特段の変化はありませんでした。

・地震や微動の発生状況（図２、図４）

火山性地震の月回数は 12 回（３月：７回）と少ない状態で経過しました。火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図１、図３）

GPS 連続観測では、長者原－坊ガツル及び長者原－牧ノ戸峠の基線長に、1995 年から 1996 年にかけての噴火後の火山ガスの放出に伴うと考えられる長期的な縮みの傾向が見られましたが、2008 年頃から鈍化傾向が認められます。

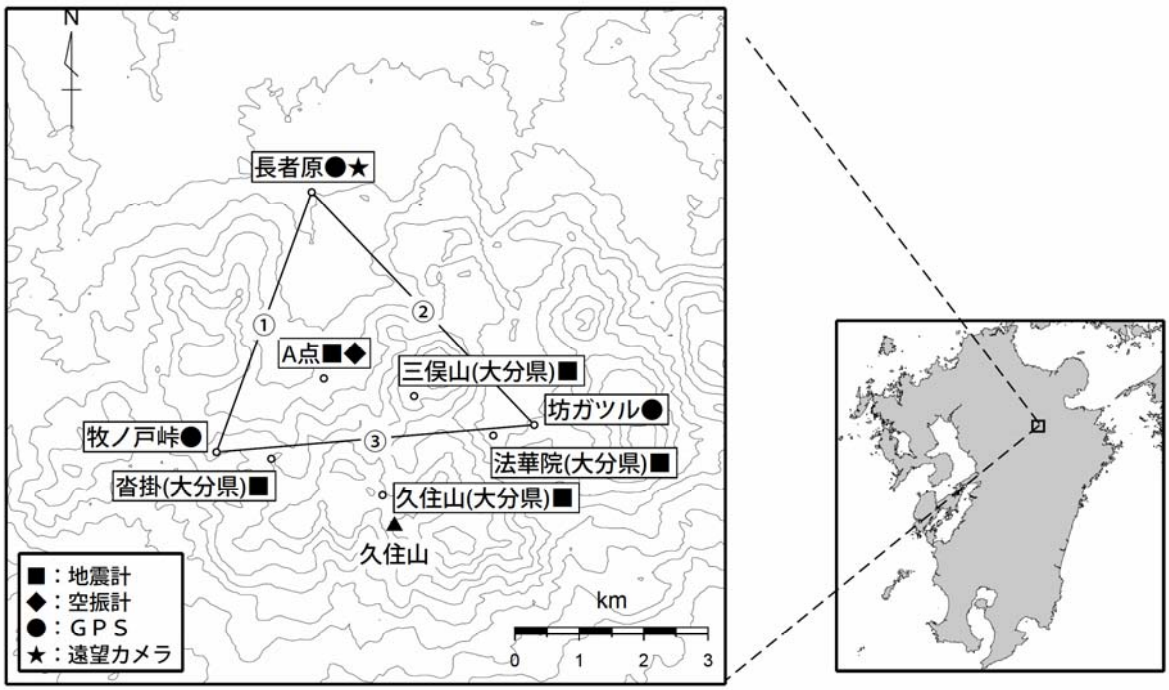


図１　九重山　観測点配置図

※この資料は気象庁のほか、防災科学技術研究所、大分県のデータも利用して作成しています。

地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50m メッシュ（標高）」を使用しています（承認番号：平 20 業使、第 385 号）。

この火山活動解説資料は、気象庁ホームページU（http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html）U、福岡管区気象台ホームページ（TUhttp://www.fukuoka-jma.go.jp/UT）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 21 年５月分）は平成 21 年６月９日に発表予定です。

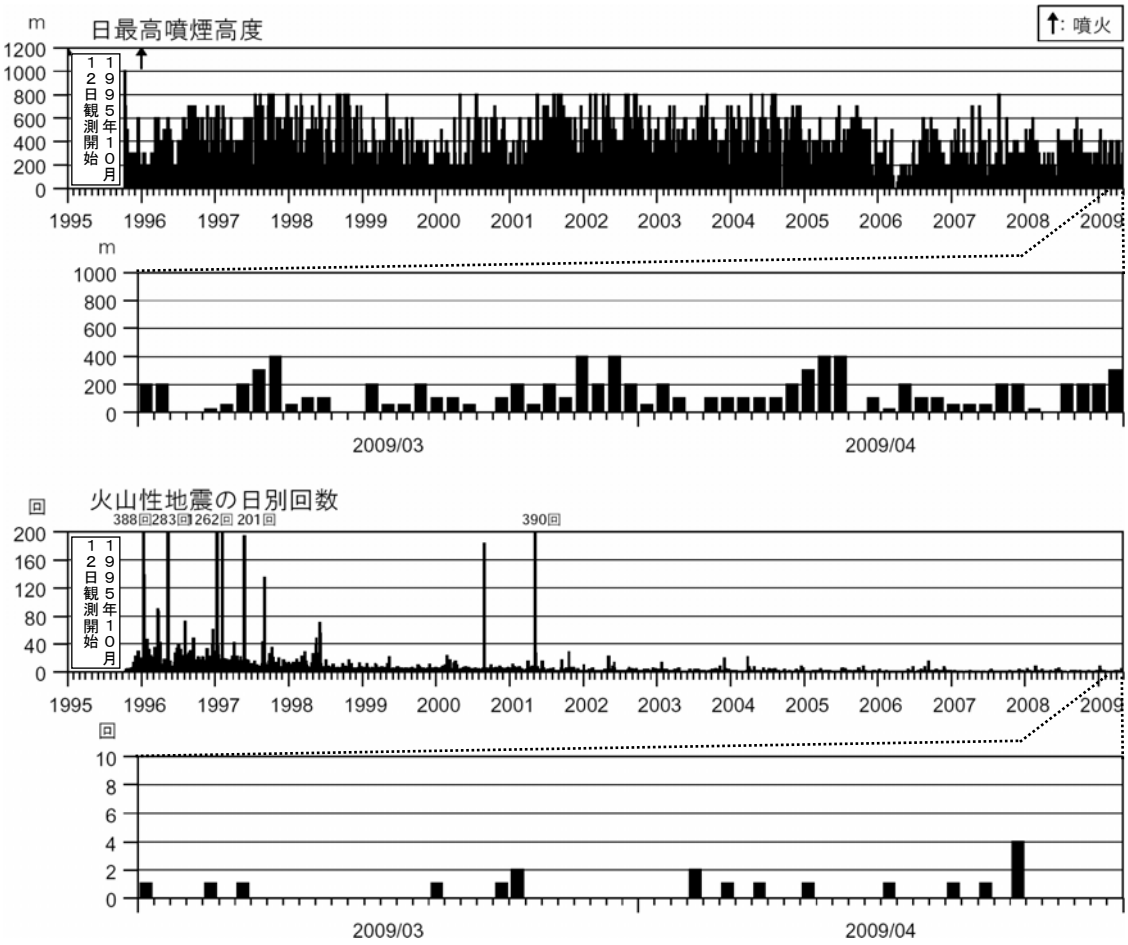


図２　九重山　火山活動経過図（1995 年 10 月～2009 年４月）
火山性地震の月回数は 12 回（３月：７回）と少ない状態で経過しました。

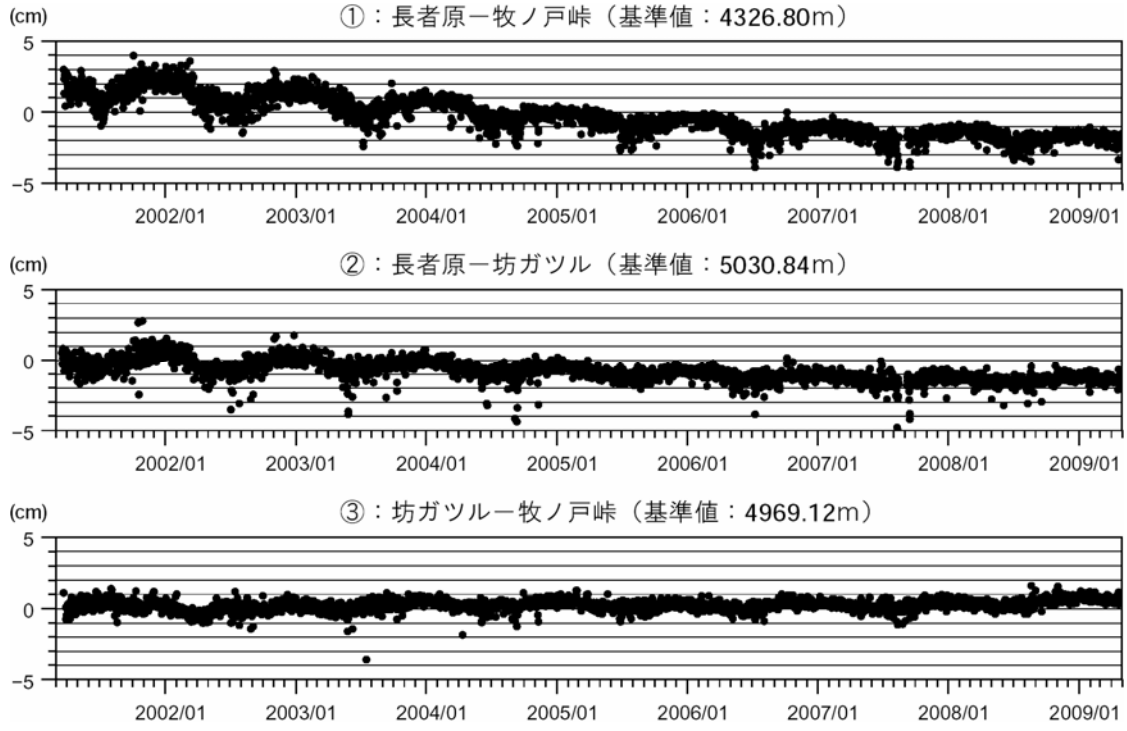
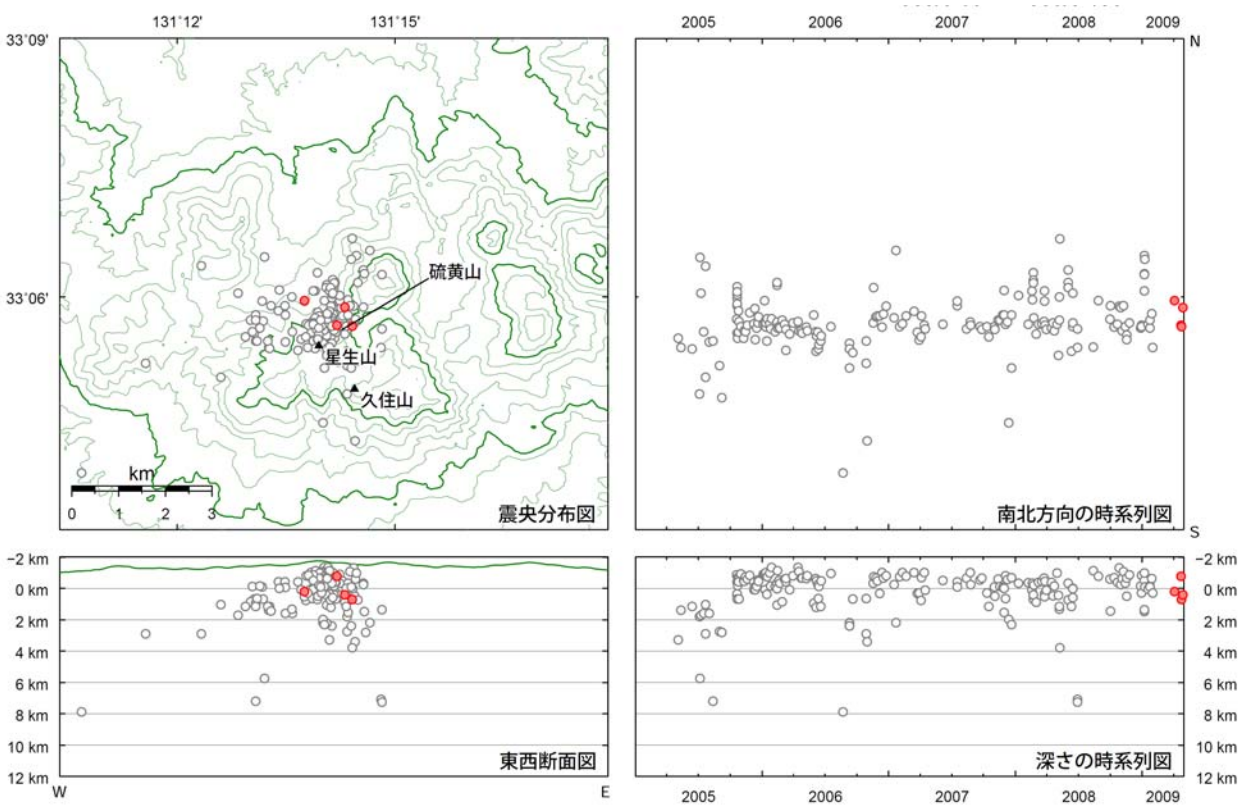


図３　九重山　GPS 連続観測による基線長変化（2001 年３月～2009 年４月）
GPS による連続観測では、長者原－坊ガツル及び長者原－牧ノ戸峠の基線長に、1995 年から 1996 年にかけての噴火後の火山ガスの放出に伴うと考えられる長期的な縮みの傾向が見られましたが、2008 年頃から鈍化傾向が認められます。
この基線は図１の①～③に対応しています。



●：2009 年４月の震源
○：2005 年１月～2009 年３月の震源

図４※　九重山　震源分布図（2005 年１月～2009 年４月）
今期間、震源は山体付近の浅いところに分布しました。